

各 位

平成30年3月24日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



早春の林の下に開花するフクジュソウ（前年の4月上旬に撮影）

フクジュソウ（キンポウゲ科）

雪が解けると、土の中からいち早く咲き出すのがフクジュソウです。落葉樹林の中で春早く花を咲かせて実を結びます。福寿草や長寿草、元日草など、縁起のよい名前がたくさんあります。金属光沢のある黄色い花は、春の光をいっぱいあびて大きく開花しています。

冬の間、厚い雪に覆われていた野草園でも雪解けが始まり、早春の草花たちが開花の準備を行っています。写真のフクジュソウが咲き始めましたが、これからオオミスミソウやセツブンソウ、アズマイチゲ、キクザキイチゲ等のキンポウゲ科の仲間たちが開花します。枯れ葉で覆われた林の下の地面に可愛い花たちが色を添えてくれます。

また今年も野草園の湿地「ミズバショウの谷」では濃紫色のザゼンソウが咲きだしました。本園のシンボルのミズバショウも間もなく開花を迎えます。これからの好季節、園内を歩きながら、早春の花たちを、是非ご覧下さい。

3月下旬から4月前半の予定

◆【プレオープン】

正式な開園に先駆けて、3/24(土)、25(日)、31(土) 9:00~16:30 に野草園は **“プレオープン”** します。冬の間、植物たちはどのように春を待っていたのでしょうか。是非、春に目覚める植物たちの様子を見にいらしてください。

◆【ガイドウォーキング】

正式開園後のガイドウォーキングは、毎週日曜日と祝日に設定していますが、プレオープン期間の3日間も行います。ぜひご参加ください。

○日 時 3月24日(土)・25日(日)・31日(土)、4月1日(日)・8日(日)・15日(日)
10:00~11:00、11:00~12:00、13:00~14:00、14:00~15:00 の4回

○内 容 野草園職員やボランティアガイドと一緒に野草園内を案内し、散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。雪解けの湿地や林下に咲く早春の花たちを見てみませんか。

※ガイドウォーキングは、毎週日曜日と祝日に予定していますが、花の見所の多い無休期間(4月第3月曜日~6月第2月曜日)と9月は、土・日と続けて実施しますので、楽しみにお越しください。

◆4月1日(日) 野草園の開園日…入園記念に、サクラソウの苗をプレゼントします(先着100名)。

◆【野草園写真展(紅の蔵)】

○日 時 4月1日(日)~22日(日) 10:00~18:00

○会 場 山形まるごと館 紅の蔵 街なか情報館

○内 容 平成29年度の写真コンテスト入賞作品や山野草盆栽・籐細工などの展示

○参加費 無料

○問合せ 紅の蔵 TEL023-679-5101 山形市十日町2-1-8

◆【バードウォッチング】

○日 時 4月14日(土) 9:30~11:30

○講 師 嵐田 稔氏

○内 容 園内を歩きながら双眼鏡などを使って野鳥を探します。

○対 象 先着20名。

○参加費 100円(入園料別)

○持ち物 双眼鏡(貸し出しあり)

○申込み 電話で野草園まで、TEL023-634-4120

◆【カブトムシの育て方教室】

○日 時 4月15日(日) 10:00~11:00

○講 師 カブトムシ生産者 千葉 和人氏

○内 容 幼虫2匹、朽木マット、ケースを配布し、育て方を学びます。

○場 所 自然学習センターピロティ

○対 象 小学生の親子 先着20組

○参加費 500円(入園料別)

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

★★★ 3月下旬と4月前半に見られる花たち ★★★



マルバマンサク(マンサク科)

マンサクが太平洋側に多いのに対して、マルバマンサクは日本海側に多く、積雪地に適応したタイプのようなようです。花はマンサクと同じですが、葉の上半部が丸いのが特徴です。線形で黄色の花弁と紫紅色の萼が良く目立ちます。春に先駆けて「まず咲く」ので、マンサクといわれています。まだ花びらが伸びきっていませんが、もうじき見頃です。



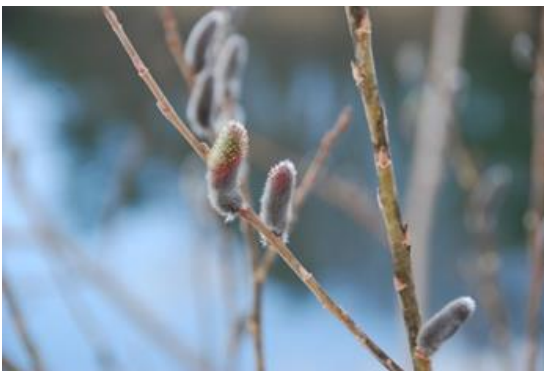
ザゼンソウ(サトイモ科)

ミズバショウよりも一足早く、「ミズバショウの谷」に顔を出しました。花の様子が、僧が座禅をしているように見えるため、この名があります。別名ダルマソウとも言われています。紫褐色の花のように見えるものは、仏炎苞と言われます。中の頭のような楕円形の部分が花序ですが、なかなか頭をこちらにむけてくれません。



ヤマネコヤナギ(ヤナギ科)

別名バッコヤナギで、樹皮は丈夫なので縄の代用にしたそうです。写真は冬の衣服を脱いだばかりの花の様子で、銀白色に輝いています。花芽が紅褐色だったということがわかります。もう少し経つと、雄花は黄色くなり、雌花は淡緑色になります。ヤマネコヤナギでつくったまな板は最高だそうです。山の斜面に普通に見られます。



ネコヤナギ(ヤナギ科)

春、真っ先に開花するヤナギのひとつです。ヤマネコヤナギのような花芽はついていません。ネコヤナギの芽鱗は一個で帽子状になっているので、すっぽりと抜け落ちます。「大平沼」の北側土手に咲いていますが、カワヤナギの別名が示すように、生育地は溪流沿いが多いようです。この後、雄花は花粉の入った葯が赤く目立ち始めます。



フキノトウ(キク科)

淡緑色の苞に包まれたフキの若い花茎がフキノトウです。雌雄異株なので、よく見ると頭花の色が違うのがわかります。写真のように黄色っぽいのが雄株で、白っぽいのが雌株です。フキノトウは、春の山菜として人気があります。特有の香りとほろ苦い味は、カリウムとポリフェノール化合物のクロロゲン酸によるものだそうです。



リュウキンカ(キンポウゲ科)

金色の花が、立った茎に咲くので「立金花」と言われています。湿地や沼地に生える多年草で、葉はフキのようなまるい形をしています。黄色の花のように見えるのは、花弁状の萼片で、花弁はありません。「クリンソウの谷」に咲いています。



ハンノキ(カバノキ科)

ミズバショウとザゼンソウが咲くところにハンノキ林があります。3月末には開花していました。枝先に垂れさがってついているのは雄花で、その下方に赤い小さな雌花が見えます。雄花も雌花も芽鱗に包まれず、冬芽が裸出したまま冬を越すのはハンノキの仲間の特徴です。ヤシャブシの仲間の雌花は芽鱗に包まれます。



アセビ(ツツジ科)

ツツジ科の低木であるアセビは、白い壺形の小さな花を下向きにたくさんつけています。牛馬が食うと麻痺するというので「馬酔木(あせび)」となったようです。葉も光沢のある緑色で見ごたえがあります。葉の煎汁は駆虫剤にもなります。花は美しいが有毒植物です。「吉林の庭」に咲いています。



オオミスミソウ(キンポウゲ科)

雪解けのあと、落ち葉を押しつけて、咲きます。雪割草とも言われています。常緑の多年草で、葉は浅く3裂し先は少しとがります。ミスミソウとスハマソウに似ていて、全体が大型です。ミスミソウ(三角草)は葉の形にもとづいたものです。「ミズバショウの谷」の木道近くの斜面に咲きます。

4月の上旬に咲き始めます



ミスバショウ(サトイモ科)

野草園のシンボルでもあるミスバショウ、白いものは葉の変形した仏炎苞、その中の黄色いものが花の集まりの花序です。バショウとはバナナの1種で、葉の長いものは2mになります。ミスバショウの葉も花後は80cm位になります。バショウの葉に似て、水辺が大変好きなのでミスバショウです。



オウレン (キンポウゲ科)

常緑の多年草で、葉は3出複葉です。オウレンの名は、黄色い根が横に走っているためと言われています。早春に花茎を出し、茎の上部に直径約1cmの白色花を1~3個つけます。花弁状の萼片とへら形の小さい花弁をつけています。根茎はベルベリンを含み黄蓮の名で胃腸薬などとして使われています。



セツブンソウ (キンポウゲ科)

旧暦の節分の頃に開花するので節分草と言われていますが、野草園では雪が解けるとすぐに開花します。白色で花弁状の萼片は5個あります。花弁は雄しべのまわりに黄色いまるい頭状の部分で蜜腺状になっています。真ん中の雄しべの葯は紫色で大変きれいです。春の妖精、スプリングエフェメラルのひとつです。



クリスマスローズ (キンポウゲ科)

中国原産の多年草です。暖かい地方ではクリスマスの頃から開花するのでこの名があります。白または淡い赤紫色を帯びた5枚の花弁状の萼の中央に、多数の雄しべとそのまわりに緑色を帯びた筒形の短い花弁があります。野草園では雪解けとともに開花します。春咲きのクリスマスローズが普通のようなようです。



アスマイチゲ (キンポウゲ科)

イチリンソウのなかまで、春の短い期間だけ咲いて、初夏には枯れてしまいます。キクザキイチゲと似ていますが、葉に切れ込みが少なく、肩を落としているように垂れ下がっていることで、見分けることができます。花弁状の萼片は白色で基部と裏側は少し紫色を帯びています。主に東日本に多く分布しイチリンソウ(イチゲ)の仲間なので名がついています。



キクザキイチゲ (キンポウゲ科)

まわりの木々が葉を茂らせる前にいち早く咲き出します。名前からもわかるように、花弁状の萼片が多く、葉も切れ込みが多く、キクの花に似ています。花色は多彩で淡紫青色から白色までいろいろあります。日が当たると花を開き、曇ると花を閉じてしまいます。